

## 令和3年度第1回 感染症発生動向調査部会

令和3年4月21日

月番：加藤 達雄（感染症全般）、石山 俊次（STI）

### 1 前月の感染症発生動向について（2021年第9週～12週・3月）

#### <全数把握対象疾患>

##### （感染症全般）

- ・結核は、対前年比 69.7%で減少している。特に潜在性結核感染症は半数であった。
- ・3類感染症の発生はみられなかった。

##### （STI）

- ・後天性免疫不全症候群は、20代女性1人、40代男性2人の計3人（うち男性1人はAIDS）が報告された。本年累計は4人で、前年同期累計（6人）よりも少なく、前々年同期累計（1人）よりも多かった。このペースならば本年の年間発生数は、前年（16人）、前々年（14人）と比べて大差はないと予想される。
- ・梅毒は、男性2人（40代と80代）の報告があった。本年累計は8人（男性5人、女性3人）で、前半同期累計（12人）より4人少なく、前々年累計（17人）より9人少なかった。年間発生数は、前々年77人→前年61人と減少しており、本年はさらに減少することが予想される。

#### <定点把握対象疾患>

##### （感染症全般）

- ・突発性発しん、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎を除き、定点把握対象疾患の減少は続いている。
- ・2021年1月以降、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症の報告は、少ない傾向にある。

##### （STI）

- ・男性の淋菌感染症が累計でやや増加傾向がみとめられるが、その他特に変化はみられない。

### 2 検討すべき課題

#### <保健環境研究所から>

- ・インフルエンザ、RSウイルス感染症について

### 3 情報提供（月番委員専門分野から）

##### （感染症全般）

・「6歳から64歳までのハイリスク者に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方」（2021年3月17日）日本呼吸器学会呼吸器ワクチン検討委員会/日本感染症学会ワクチン委員会/日本ワクチン学会・合同委員会 肺炎球菌性肺炎やIPDのリスクとなる主な基礎疾患ごとに、6歳～64歳のハイリスク者に対する肺炎球菌ワクチンの予防効果と推奨の要点を記載

##### （STI）

・日本における梅毒の年間発生数は2018年の7,007例をピークに2019年6,639例、2020年5,817例と、新型コロナウイルス感染症拡大より1年前から減少に転じている。2019年から2020年にかけての減少率は全国平均で12%（トップ3では、東京都7%、大阪府18.6%、岡山県15%）とコロナ禍の自粛生活で著しく減少した感染症に比べて軽度の減少にとどまっている。

他の性感染症発生に減少傾向がみられないことから、梅毒の発生数減少は数年前から始まった啓発活動が影響していると考えられ、活動の更なる継続が望まれる。

#### 4 その他（感染症対策推進課から）

- ・「定期の予防接種等による副反応疑いの報告等の取扱いについて」の一部改正について
- ・「予防接種実施規則第5条の2第2項に基づき行われる児童相談所長等の予防接種に係る同意について」の一部改正について
- ・「予防接種法施行規則及び予防接種実施規則の一部を改正する省令」の公布について
- ・「予防接種法第5条第1項の規定による予防接種の実施について」の一部改正について
- ・乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンに関する定期接種の対象者及びその保護者に向けたお知らせ文書について（情報共有）
- ・予防接種法施行令等の一部を改正する政令の施行について（予防接種関係）

---

#### <検討結果>